

甲府一高同窓生の皆様

2026年3月14日

甲府一高あおぞら会
会長 露木 和雄 (昭和45年卒)

認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワークが山梨県北杜市に建設・運営している、病気や障がいのある子ども達とその家族のためのレスパイト(一時休息)施設「あおぞら共和国」を支援する団体として立ち上げた「甲府一高あおぞら会」は2025年2月で10周年を経過しました。会員数は434名(甲府一高卒以外の方124名を含む)で、あおぞら共和国への支援は2025年末累積が2,000万円を超えております。これも甲府一高同窓生の皆様のご協力のおかげです。ご協力に御礼申し上げます。感謝の意を込めまして、甲府一高あおぞら会年報2025「AOZORA」設立10周年記念号をお渡しいたします。10年のあゆみをご一読いただき、甲府一高あおぞら会にご入会して、ご支援いただければ幸いです。尚、会員の皆さまには会員の継続と年会費3千円の納入をお願いします。

〒400-0865 甲府市伊勢2丁目13-5 小口マタイ(株)内

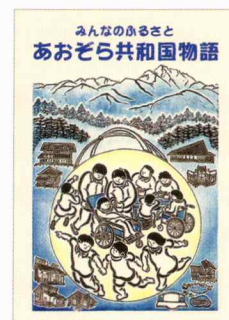
甲府一高あおぞら会

ホームページ:<https://ymkp.net/aozora/>

事務局Mail:aozora@ymkp.net

追伸:小口弘毅氏(甲府一高あおぞら会実行委員・昭和45年卒)が編纂を行った「あおぞら共和国物語」を紹介する120頁の冊子を電子ブックとして、以下の甲府一高あおぞら会のホームページの中に掲載しておりますので閲覧ください。PDF形式ファイルをダウンロードしてパソコンで閲覧も可能です。

<https://ymkp.net/aozora/publishing2.html>



甲府一高あおぞら会 入会申込書

ふりがな

お名前

連絡先

〒

-

電話番号

-

-

携帯番号

-

-

E-mail

@

甲府一高卒業年

昭和

年

or 平成

年

甲府一高卒ではない()

本会紹介者 / 本会を知った機会

通信欄・質問事項等

入会申し込みはこの用紙を甲府一高あおぞら会事務局まで郵送、QRコードを読み取り申し込みフォームあるいは画像・PDFファイルをメールに添付して送ってください。

事務局: 〒140-0011東京都品川区東大井4-3-13-601 山本秀彦

事務局メールアドレス: aozora@ymkp.net

甲府一高あおぞら会のホームページ<https://ymkp.net/aozora/>

に加入申し込み方法を案内しております。



甲府一高あおぞら会では、お預かりしました個人情報個人情報は適切な方法で管理し、本会の目的であるあおぞら共和国の支援と甲府一高及び、その同窓会との情報共有の範囲内でのみ利用するものとします。

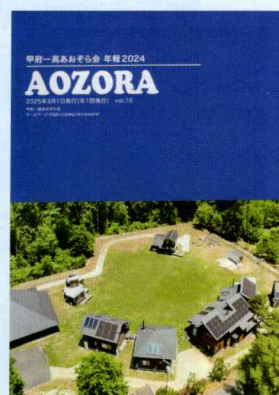
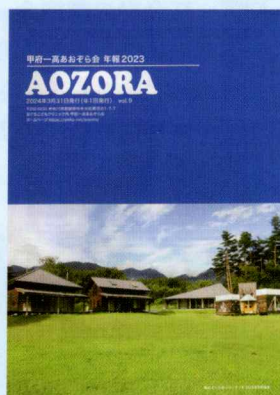
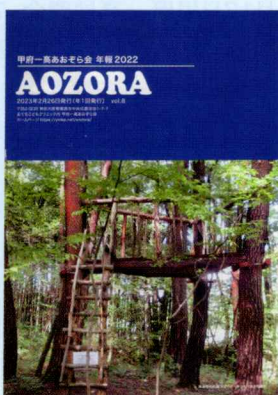
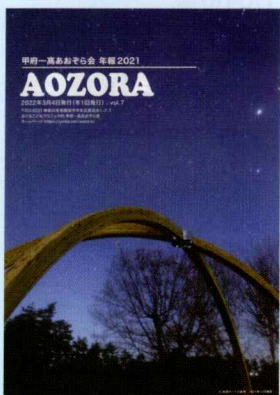
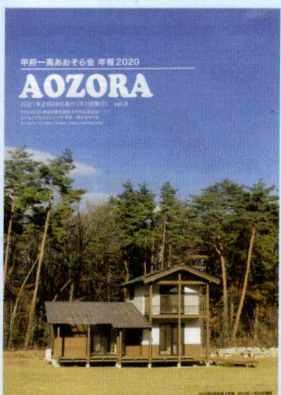
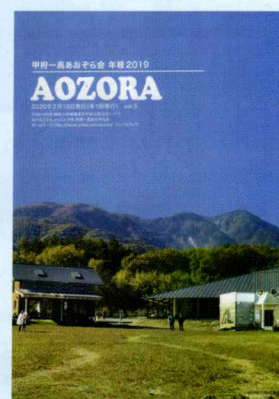
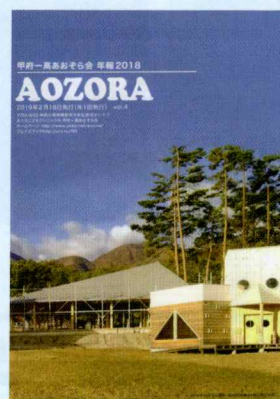
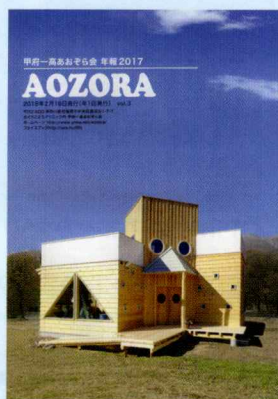
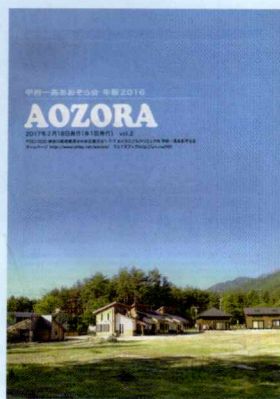
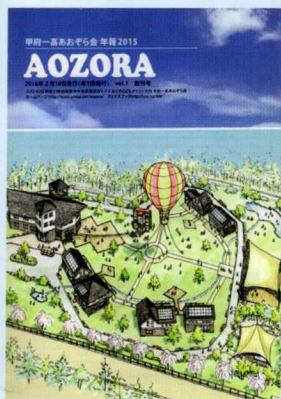
甲府一高あおぞら会 年報 2025

AOZORA

2026年3月1日発行(年1回発行) vol.11

ホームページ <https://ymkp.net/aozora/>

甲府一高あおぞら会設立 10周年記念号



甲府一高あおぞら会 10年のあゆみ QRコードより10年分の年報がご覧いただけます。



“あおぞら共和国”へのご支援ありがとうございます。

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事 福島慎吾

甲府一高あおぞら会10周年記念、まことにおめでとうございます！ 前年の貴年報以降最大のトピックスとして、当会は“あおぞら共和国”における「難病のある子どもたちに、かけがえのない交流体験」を目的とした「難病の子どもの未来支援事業」に関する連携協定を山梨県と締結することができました。2025年3月24日には、山梨県庁防災新館において連携協定締結式が行われ、長崎幸太郎知事および岡明会長が連携協定に署名、その後、共同記者会見が行われました。この模様はNHK甲府放送局のニュースで放映されたほか、山梨日日新聞にも記事が掲載されました。この度の県との協定書締結を契機にして、さまざまな新しいこと・ものが目に見えて動き出してきたことを実感する今日この頃であります。これもひとえに、甲府一高あおぞら会の皆さまをはじめとする、山梨県民・関係者の皆さまからの長年にわたるあたたかいご支援のたまものと、心より感謝申し上げます。これからも、難病や慢性疾患・障害のある子どもとその家族に寄り添う活動を地道に続けてまいります。最後に、皆さまのご健康・ご健勝を祈念するとともに、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をたまわりたく伏してお願い申し上げます。

あおぞら共和国でのボランティア活動紹介

草刈りボランティアは春秋の2回、一般の方に呼び掛けて実施されています。甲府一高あおぞら会会員も参加しています。2日間なので、あおぞら共和国に宿泊出来ます。1日の参加でもOKです。参加者は主催者負担でボランティア保険に加入しています。翌年3月末まで全てのボランティア活動に有効です。

初夏の草刈りボランティア(2025年5月30日、31日開催)

春の草刈りは5月30日、31日実施されました。23名で作業しました。草刈りと敷地の周りの植栽の手入れ、森の枯れ木伐採、薪作り、あおぞらの森マスコットの熊さん作り、ロッジの清掃等を行いました。予報では雨でしたが、作業にはほぼ支障なしでした。30日夜はロッジ宿泊者も交え20名以上で3号棟テーブルを囲み、千葉シェフの料理でにぎやかな懇親会となりました。2026年の初夏の草刈りは5月29日(金)、30日(土)開催の予定です。



秋の草刈りボランティア(2025年9月26日、27日開催)

秋の草刈りは、好天に恵まれ、9月26、27日開催でした。常連に新しい参加者、宿泊中の家族も含め大人30名、子ども7名の大草刈り部隊となりました。作業は森づくりグループ中心に森の危険木除去、ツタウルシ取り、ツリーデッキ等の遊具の補修、敷地周辺の草刈りを行いました。食事は交流棟を使ったのでゆったりとくつろげました。芝生広場は強力な4輪大型芝刈り機で楽々と完了しました。2026年の秋の草刈りは9月25日(金)、26日(土)開催予定です。



認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク主催あおぞら共和国イベント

春のチャリティーウォーク (2025年3月28日開催)

<https://ymkp.net/aozora/20250329springWalk.html>

あおぞら共和国を出発・ゴールとする右図のコースで、3月28日に約30名参加しました。当日はやや冷たいハケ岳おろしが吹いていましたが、参加者の皆さんは元気に、まず道の駅はくしゅうを目指しました。昼食休憩とともに産直野菜などの買い物を楽しんだ後、山梨銘醸「七賢」および金精軒を訪れ、お土産を購入しました。途中、山の水農場ではキノコも購入し、最後にホテル親水公園で記念写真を撮影して、あおぞら共和国へ戻りました。交流棟で休憩後、解散となりました。なお、甲府一高あおぞら会では、医療サポートおよび送迎・伴走車の支援を行いました。2026年は4月11日(土)開催予定です。



秋のチャリティーウォーク (2025年11月15日開催)

11月15日に開催された秋のチャリティーウォークには、約70名の方が参加されました。今回は春と同じあおぞら共和国を出発・ゴールとするコースを逆方向に回るルートでした。神宮川沿いの紅葉を眺めながら旧甲州街道を下り、ほたる親水公園、台ヶ原宿を経て道の駅はくしゅうに立ち寄り、その後、駒ヶ岳広域農道を歩いてあおぞら共和国に戻る、約10kmのコースを歩きました。昼食はほたる親水公園でとり、その後、七賢・金精軒や道の駅はくしゅうでの買い物も楽しみました。なお、甲府一高あおぞら会では、車による巡回サポート要員として支援を行いました。2026年は11月14日(土)開催予定です。



第5回「春のキャンプ」とその支援紹介

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 田伏純子

以下の記事は難病ネットのページから転載です。<https://www.aozorakk.com/20250418camp>

2025年の「春のおおぞらキャンプ」は4月11日(金)～13日(日)に開催され、北は宮城県、南は沖縄県を含む全国から7家族21名の参加がありました。満開の桜や紺碧の空など白州の春を皆さん満喫いただけたのではないかと思います。また、12日(土)の午前中には100名を有に超える地元のご家族に来ていただきました。残念ながら、晴天にも関わらず風が強かったため気球は上げられませんでした。プラネタリウムや色々なワークショップを楽しんでいただきました。キャンプに参加したこども達、地元の難病や障がいをもつこども達と健全なこども達・・・みんなが同じ空間で本当に楽しそうに遊んでくれているのを見る事ができて、とても心が温かくなる時間でした。甲府一高おおぞら会では遠方からの参加者へ交通費の支援を行いました。



2024年3月たくさんイベントへの参加者からのお手紙

私は2024年3月に母、私(高校2年生)、妹(中学3年生)、妹(小学4年生)の4人家族で初めてあおぞら共和国へ参加させていただきました。私の末の妹はチャージ症候群という難病を抱えて生まれ、長い入院生活と幾度もの手術を乗り越えて家に帰ってきました。今は気管切開と経鼻栄養、夜間の人工呼吸器の装着と車椅子の使用で家族と共に在宅で生活をしています。

あおぞら共和国初日、私たち家族は母の運転で少し迷子になってしまい予定時刻より遅くあおぞら共和国へ到着しました。到着後車から降りて夜空を見上げた時の感動は今でも忘れられません。私と妹たちは星を手で捕まえることができるのではないかと思います。夜空に手を伸ばしてみたりしました。その後お部屋に案内して頂いたのですが、ホールから繋がるコテージはスロープがついていて移動も楽で、部屋の中も妹が使いやすいバリアフリーで木の温もりを感じる素敵なコテージでした。そのコテージ内では暖炉を見つけ、初めての暖炉に家族皆でびっくりしました。暖炉の暖かさは体だけでなく心までゆったりと暖めてくれました。眠くなるまで暖炉の火を眺めたのも思い出です。

翌朝は初めての雪にさらにびっくりしました。現地のスタッフさんに3月に雪を見ることが出来るのは珍しいことでラッキーだね、と教えてもらいました。私と妹たちは朝食の後、夢中になって雪で遊びました。末の妹は雪を見て「これ何?」って感じでしたが、その雪を小さく丸めて末の妹の手に乗せたら雪の冷たさにびっくりしたようで目をまん丸して出していた手をすぐに引込みました。でも、雪に慣れてくると丸めた雪を握ったり両手でぺしゃんこにしてみたりと雪の感触を楽しんでいました。家族で雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり、雪の上にコロんと寝そべったりしてとても楽しかったです。

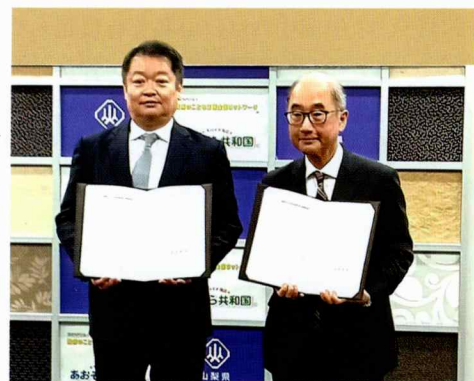


コテージの周りは自然が沢山で散策したのですが、初めて見る杉の木やどんぐり、遠くに見える雄大な山々に圧倒されました。2泊3日の利用でしたが、初めて尽くしの経験ばかりで家族みんなと同じ素敵な思い出がたくさんできました。また、沢山の楽しい、嬉しいを共有し、家族の絆がもっと深まりました。私は現在看護師を目指していて、将来は沢山の思い出をくださったあおぞら共和国で看護師としてボランティア活動をして、もらったよりも多くの幸せをお届けするお手伝いができるかなと思います。そして、妹がこんなにも自然を満喫して快適に過ごすことができるようにサポートして下さったあおぞら共和国には感謝しかありません。あおぞら共和国を建国していただきありがとうございます。

山梨県と認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワークとの間で連携協定が締結されました!

Great news!

山梨県と難病の子ども支援全国ネットワークは、山梨県北杜市にある「あおぞら共和国」において、難病のある子どもたちにかげがえのない交流体験を提供することを目的とした「難病の子ども未来支援事業」に関する連携協定を、2025年3月24日に締結しました。山梨県では、難病の子どもとその家族を支援するため、2025年12月までふるさと納税を活用したクラウドファンディングによる寄附募集を実施しました。クラウドファンディングで集まった寄附金は、より多くの難病の子どもとその家族が「あおぞら共和国」を安全かつ快適に利用できるよう、施設内の環境整備やサマーキャンプなどの各種イベント運営、広報活動のさらなる強化に活用されます。連携協定がニュースとして取り上げられたことにより、あおぞら共和国を知ってくださる方が増え、山梨県内の利用者も、2025年度には、前年まで約10%だったのが、約25%まで増えました。



左 長崎幸太郎 山梨県知事 右 岡明 難病ネット会長

山梨県内支援学校の外出行事先としてなどの団体利用もあれば、家族単位の個人利用もあります。また、山梨県独自の制度である訪問看護師派遣事業では、いままで旅行など思いもよらなかった人工呼吸器をつけたお子さんが、訪問看護師同行により、あおぞら共和国に宿泊できました。Hくんとお兄ちゃん、ご家族、訪問看護師さんを含めた9名でのご利用でした。峡東地区からあおぞら共和国までの旅行です。これまで家族だけでは宿泊が難しかった子どもとその家族や、医療的ケアが必要な重症の子どもとその家族の利用が実現しました。利用した家族からは、「この制度があったことで、初めて家族で旅行することができ、とても良かった。次回は連泊で利用したい。星がきれいな冬に行けたらと思う」といった感想も寄せられています。

会員の皆様の声 振込用紙や領収書メールへの返信にいただいた声

年1回の会費のお振込みをお願いしておりますが、その際、振込用紙に添えていただく温かいお言葉は、実行委員一同の大きな励みとなっております。10年間にわたり、多くのメッセージを頂戴してまいりましたが、その中から一部をご紹介します。

- ★年報「AOZORA」楽しみに拝読しています。今年の活動も様々なイベントも良き時となりますよう祈っています。
- ★メール拝受いたしました。ありがとうございます。気持ちでしか支援できませんが、心より敬意を表したいと思います。これからも活動が広がって行く事を願っております。
- ★先輩方の活動内容に比べれば、年会費の協力ぐらいしかできませんが、引き続き甲府一高あおぞら会の活動を支援できればと思います。
- ★ささやかながらのお手伝いです!
- ★難しい時代ですが一人でも多くの方が笑顔になれるよう、皆様のご活躍をお祈りします。
- ★活動状況をお知らせくださりありがとうございます。
- ★年報2021の表紙、星空の「アオ」と白抜きの「AOZORA」「門と木々」素晴らしい表紙でした。
- ★ささやかなお手伝いですが今年も年会費を振込みます。
- ★皆さんの思いがこもった「あおぞら共和国」ありがとうございます。ささやかな気持ちのお手伝いが出てうれしいです。
- ★実行委員の皆さまのご尽力に敬意を申し添えたく存じます。本年もあおぞら会年報をお手配いただきありがとうございます。あおぞら共和国のご繁栄を祈念申し上げます。
- ★ご多忙中、このような社会活動をなさっておられ感謝申し上げます。北杜市の良き環境にあるあおぞら共和国の施設がますます用いられることを願っております。

甲府一高昭和41年卒 山梨県議会議員 清水喜美男様

「あおぞら共和国」を“北杜福祉文化圏”の中心地に!!偶然の出会いが、山梨県からの新しい支援に繋がりました。令和5年5月、難病のこども支援全国ネットワークの方とお会いする機会があり、まだまだ行き届いていない福祉課題の実態を知ったのです。私自身、毎年「感謝祭」には参加していましたが、関係者の多くの御苦勞を知る努力が足りなかったことを反省した次第です。諸々の課題に対しては、山梨県福祉保健部職員の迅速かつ丁寧な対応により、解決に向け前進することができました。また知事をはじめ、県幹部の皆様には直接現地を訪問して頂き、連携協定の調印(右6ページに詳細)に至ったことは大きな出来事でした。「あおぞら共和国」の近隣には、薮内美術館や台ヶ原宿、サントリー白州工場など、特色ある施設がありますが、今後は、こうした施設とコラボして“北杜福祉文化圏”を形成し、その中心地に「あおぞら共和国」がなる!!～こんな事を心密かに願っているところです。「あおぞら共和国」が、山梨県民全ての交流レスパイト施設として……。

甲府一高昭和46年卒 塩崎千枝子様(松山市在住)

難病の子どもたちと家族のために同級生たちが熱い思いで立ち上げた「あおぞら共和国」の建国10周年を心からお祝い申し上げます。豊かな大自然と仲間の温かい笑顔が溢れる共和国は、幸せな癒しと交流の国として多くの家族に愛されてきたことでしょう。当初、小口さんや露木さんから話を聞いてその壮大な計画に驚いたものですが、皆様の今日までのたゆまぬ熱意と努力に本当に頭が下がります。私たち夫婦は里親支援のNPO活動を始めて3年になります。親に育ててもらえず愛されたことのない子に温かい家庭をと、懸命に里子を育ててくれる里親さんたちに感謝の毎日です。社会には、人々の理解や支援が必要な子どもや家族がたくさんいて、「あなたが大切だよ」と抱きしめてくれる人、手を差し伸べてくれる仲間を待っています。変わりゆく現代家族を地域ぐるみで支えあう新たな共生社会を皆で作らなければならない待ったなしの時だと感じています。美しい故郷の山河に遙か思いを馳せ、あおぞら共和国のご発展と子どもたちの未来に心からのエールをお送りします。

甲府一高昭和41年卒 田中静雄様(小口兄弟の従兄弟)

平和は、尊い命を守るために不可欠です。甲府一高あおぞら会の10周年、誠におめでとうございます。露木和雄会長、山本秀彦事務局長をはじめ、実行委員の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。2020年11月17日、山梨平和ミュージアムにて、小口弘毅さんが「難病児に生きる歓びを」と題した講演を行い、「あおぞら共和国」や小口三兄弟のチームワークについて紹介されました。講演では、故・仁志田博司先生が2011年に立ち上げた「みんなのふるさと夢プロジェクト」、白州を起点とするチャリティーウォーク、そして世界初の子どもホスピス「ヘレンハウス」について語られました。さらに、『A House Called Helen』を翻訳し『ヘレンハウス物語』として出版するまでの苦勞にも触れられました。山梨に生まれ育ち、心をついに活動する三兄弟の姿は、甲府一高あおぞら会に息づく郷土愛と同期愛に通じます。私は、郷土愛・命の大切さを考える催し(64人参加)であおぞら共和国の交流棟と広場を使わせていただきました。故・小林信秋さん*の「難病児の中に無垢な魂の存在に気付かされた」という言葉を、今こそ心に留めてほしいと願います。 *小林信秋さんは難病ネットの設立者、元会長



2011年作成のあおぞら共和国完成予想図



2014年 チャリティーウォーク後 ロッジのデッキ部分の費用を寄付し、記念に裏側にサインをした

甲府一高昭和44年卒 あおぞら共和国支援有志グループ

44年卒の我々は2012年まだあおぞら共和国の敷地が松林だった頃からチャリティーウォークに参加してきました。その頃目にした、完成予想図(ロッジが囲む中庭に気球が上がっている)を見ても、まさかこんなに大きな規模の計画が実現するのはそれこそ『“夢”でしょう?』と思っていたのですが、なんと、気球も含めて実現しましたね!!!デッキ材一枚の費用を寄付して裏にペンキで寄付者の名前を書いたのも懐かしい思い出です。

甲府一高あおぞら会 実行委員から一言 10周年を迎えて

甲府一高あおぞら会の実行委員は、現在17名で活動しています。主な活動は、甲府一高同窓会などを通じた「あおぞら共和国」支援のお願い、難病ネットのイベント手伝い、山梨県人会をはじめとする各種ボランティア団体への働きかけ、年報の作成・発送、会費徴収、寄付金振込などです。現在、実行委員を広く募集しています。近年は甲府一高出身でない会員も増えており、東京・山梨以外にお住まいの方や若い世代の参加も歓迎しています。ご関心のある方はご連絡ください。(数字は甲府一高卒業年、Sは昭和、Hは平成です。)



会長 露木 和雄(S45) この実行委員の皆様と楽しく11年間活動出来ました。ありがとうございました。以前、日野春駅からあおぞら共和国までのウォークに参加した時、車いすでの参加者を、紐で支えながら必死の思いでつづら折りの急坂を下った事は忘れられません。実行委員そして会員の皆様と共に次の10年に向け新たなあおぞら会の歩みを進めていきましょう。



2015年 ふるさと祭りで踊る露木会長



事務局 山本 秀彦(S41) あおぞら共和国とのかかわりのきっかけは、2016年に亡くなられた佐々木まち子さんの出会いでした。2012年秋、当時の一紅会飯田会長が参加されていた水彩画教室展で初めてお会いし、『翌2013年春の講演会で、同級生の小口弘毅さんが講演を行うことになっているので、彼が進めている「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」をWebで紹介してほしい』という非常に積極的なアプローチを受けました。佐々木さんから同窓生への呼びかけ文は、現在も東京同窓会のWebサイトに掲載されています。**A** また、小口さんの講演内容と“夢”プロジェクトの紹介も、同窓会のWebページに残しています。**B** 以後、甲府一高あおぞら会のホームページを担当しています。当初は、個人Webサイト内に随時掲載していましたが、2014年にあおぞら共和国専用のサイトを作り、イベント案内や参加者募集、毎年の活動記録を写真主体で約14年間掲載してきました。**C** 今後10年へと引き継いでくださる次の担い手にバトンを渡すことが、私の宿題です。



監事 谷口 百合子(S36) 小口さんが一高の同窓会の講演会で、あおぞら共和国のことを紹介して下さったことをきっかけにこが進み、多くの方の賛同、協力を得て“甲府一高あおぞら会”が10周年を迎えました。これを通過点とし、さらに広く、深くいい活動をしていきたいと思っています。思い出に残っているのは、最初に参加したウォーキングです。“あおぞら会”の将来を思い描きながら、お仲間とおしゃべりしながら楽しく歩いたことです。



2014年春のチャリティーウォークで、左から谷口監事、小口委員、仁志田さん



副会長 軽石 泰孝(S50) 新丸ビルのイタリアンレストランでの初会合から、早いもので10年ですね。私は正直難病の子供たちについて、何も知りませんでした。我々昭和50年卒が東京同窓会幹事の時に、一紅会講演会で小口弘毅先輩に講師をお願いしたのがきっかけでした。会の設立によって、チャリティーウォークの本格的なお手伝いも始まり、難病の子供たちと接する機会も増えました。ウォーク先達を仰せつかったのに道を間違えてしまったことも苦い思い出です。そんな私ですがこの活動を通して少しだけ難病の子供たちと家族のご苦労に触れ、この活動の意味を改めて感じています。これからも微力ですが、お役に立てる様頑張ります。



2015年春のチャリティーウォーク。左助っ人としてサポートしている軽石副会長



田伏 純子 会計・リエゾン委員(S44) 私は、次女が難病を患ったことをきっかけに、認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」の会員となり、2011年に「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」の実行委員として活動することとなりました。

2012年には小口兄弟と田伏で、同窓会理事会に対してブース出展の依頼を行い、翌2013年には、故・佐々木まち子さんの推薦により、一紅会にて小口弘毅さんが講演を行いました。またその年の東京同窓会幹事学年の皆さんがチャリティーウォークに参加したこと等を契機に、同窓会内で「あおぞら共和国」を支援しようという機運が高まりました。チャリティーウォーク中、歩きながら、谷口さんから「同窓会での募金活動だけでなく、継続的な支援ができないか考えているのよ」とのお話があり、それらがきっかけとなって「甲府一高あおぞら会」が発足しました。あおぞら共和国はその後、ロッジ5棟をはじめ、お風呂棟、Kid's Box、交流棟と、次々と建設され、多くの子どもたちとその家族が、気兼ねなくゆっくりできる数日間を楽しんでいます。これらの施設は甲府一高あおぞら会をはじめとする多くの関係者の支援によって実現したのだなあと、あらためて思います。



2018年秋実行委員会 左から宇野委員、露木会長、田伏委員、高橋委員



小口 弘毅(S45) 最近、甲府一高あおぞら会の会員になってくれる友人から、こんなメールが届きました。「“あおぞら共和国”の応援は継続しますが、会への参加意欲が少し減ってきた気がします。歳ですかね？」しかし私は、必ずしもそうではないと思います。むしろ年齢を重ね、徐々に弱ってくるからこそ、“あおぞら共和国”の価値は、より現実味を帯びて感じられるのではないのでしょうか。老小児科医である私には、“あおぞら共和国”を訪れることもたちが、重い病を抱えながらも懸命に生きている姿が、実に愛おしく思えます。多くの制約の中で、限られた人生を生きることもとその家族にとって、美しい里山で過ごす時間は、かけがえのない貴重なひとときです。甲府一高あおぞら会の立ち上げに関わった私たちは、これから本格的に老境を迎え、日々の生活に制約を感じるようになります。その分、“あおぞら共和国”を訪れることもたちとの距離は、むしろ縮まっていくのではないのでしょうか。最後に、サムエル・ウルマンの詩(『青春とは心の若さである』角川書店)から一節を紹介します。「歳を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき、初めて老いる。」



2019年 秋チャリティウォーク出発前、日野原駅で道順説明をする小口委員



2017年 実行委員会 当時小口委員が院長のおぐちこどもクリニックにて



齋藤 一文(S45) 2018年退任 故・佐々木まち子さんからの要請をお受けして、会計をお引き受けしました。会の会計全般を立ち上げ、預かる立場になりましたので、責任ある活動を行ってきたつもりです。2018年自身の事情により、会計の役割を十分に果たせなくなったこと等により、退任させていただきました。ウォーク等に参加して、全く未知であった世界を感じさせていただきました。あおぞら共和国並びに会のご発展と委員の皆様方のご健勝を祈念しております。



2016年 春のチャリティウォークの後、あおぞら共和国広場で総会を開催。右から会計報告する齋藤さん、山本事務長、露木会長



保延 義仁(S50) 2025年退任 チャリティウォークで車椅子のお子さんを初めて助っ人した時は、務めを終えて不安が喜びに変わりました。皆さんと共に行うあおぞら共和国の草刈りや会報の袋詰めも楽しい思い出です。目標に向けて力を合わせる作業の楽しさを味わいました。会勢持続と実行委員の皆様のご健勝、ご活躍を祈っております。



2018年 秋のチャリティウォーク、女の子と手をつなぎサポートする保延さん



宇野由美子(S40)



雨宮 俊彦(S45)



飯沼 温子(S45)



小口 博(S47)



斎木 裕子(S50)



内藤 秀明(S50)



高橋 久(S51)



青柳 均(S51)



岡 亜佐子(S59)



上松 裕之(H3)



保坂 香子(H3)

佐々木まち子(S45) 甲府一高あおぞら会の発起人(2016年逝去)を偲んで 小口弘毅実行委員

2013年3月25日にまち子さんからメールをもらいました。『桜が満開になりましたね。土曜日に第九のレッスンのあとで、千鳥が淵へ仲間と一緒に夜桜を眺めに行ってきました。すごい人の波でした。空間いっぱい膨らみ、広がり、こぼれ、ほとぼしる桜の命を身体中で浴び、うきうきしながら歩いてきました。』生涯を夢見る女性として生きたまち子さんらしいメールです。小学校の頃からの幼友達であり、親しみは格別でした。夢プロジェクト支援を一高同窓会にどのように働きかけたらいいかと思いついていた時に、まちさんは2013年度の一紅会講演会をしたかどうかと提案してくれ、谷口会長の協力もあり、実現しました。支援の機運が高まってきたので、一高同窓生の支援の会を立ち上げようということになり、丸の内ビルのイタリアンレストランで初会合を2014年11月に開きました。まさにまちさんは甲府一高あおぞら会の生みの親だと思います。ありがとう。



左小口委員 右佐々木まち子さん

甲府一高あおぞら会のあゆみ

●=夢プロジェクト/難病ネット主催のイベント

◆=甲府一高あおぞら会のイベント

2010年～2013年

甲府一高あおぞら会発足前

- 2010年秋、仁志田氏、小林氏、後藤氏、小口氏の4人でプロジェクトをスタート。
- 2011年7月16日みんなのふるさと“夢”プロジェクト実行委員会発足
- 2011年11月5日建設地の北杜市白州の森林伐採式
- 2012年3月～10月東京水道橋から白州まで170kmを4回に分け、キャンペーンしながら歩く
- 2012年5月～同窓会にて、小口兄弟と田伏氏 募金活動
- 2013年3月開発工事開始
- ◆2013年3月9日 一紅会(甲府一高卒女性ネットワークの会)講演会で小口弘毅氏が難病の子ども達と共に歩む小児科医として講演し、甲府一高同窓会員にプロジェクトへの『支援』を呼びかけ
- ★2013年春のチャリティーウォーク、小口氏が企画し4月28日(韭崎駅～白州)、コースを変更 5月19日(日野春駅～白州)
- 2013年9月1号棟起工式



2011年 ふるさと夢プロジェクト発足会



2013年 起工式



2011年 伐採式



2012年170kmチャリティーウォーク



2013年3月9日 一紅会講演会



講師:小口 アシスト:田伏



2014年11月甲府一高あおぞら会準備会

2014年

- 2月北杜市白州の施設を「あおぞら共和国」と命名
- 3月29日1号棟竣工式
- ★4月26日春のチャリティーウォーク 太陽熱温水器、発電パネル贈呈式
- ◆5月17日、7月26日甲府一高同窓会で資料配布
- ★10月25日秋のチャリティーウォーク
- 10月2号棟完成
- ◆11月16日甲府一高あおぞら会設立準備会開催
- 12月浴室棟完成



2013年4月 チャリティーウォーク



2014年1号棟竣工式



2014年4月26日 チャリティーウォーク



2014年10月 2号棟完成



2014年10月25日 チャリティーウォーク



2015年 東京同窓会で募金活動



2014年浴室棟完成

2015年

- ◆2月15日甲府一高あおぞら会発足
- ◆3月14日、5月17日、7月11日同窓会で広報活動
- ★4月25日春のチャリティーウォーク
- ◆4月25日甲府一高あおぞら会 総会
- ★5月30、31日草刈りボランティア
- 9月25日4号棟贈呈式、10月3号棟着工
- ★10月17日秋のチャリティーウォーク 第1回ふるさと祭り
- ★11月7、8日 草刈り・薪割りボランティア



2015年10月17日 チャリティーウォーク



2015年9月25日 4号棟贈呈式



2015年9月 4号棟竣工



2015年10月 ふるさと祭り
甲府一高現役生アカペラ部出演



2015年10月 ふるさと祭り出店テント

★=共催 or 難病ネットのイベントに甲府一高あおぞら会として参加 / 部分サポートしたものです。

2016年

- ◆2月10日年報AOZORA2015創刊号発行
- ◆3月12日、5月21日、7月9日同窓会で広報活動
- ★2月～4月みんなのふるさと“夢”プロジェクト5周年記念 東京～白州170km ウォーク
- ◆4月18日甲府ロータリークラブより基金表彰を受賞
6月の例会ではあおぞら共和国紹介の講演を実施
- 4月21日 3号棟竣工式
- ★4月23日春のチャリティーウォーク
- ◆4月23日甲府一高あおぞら会 総会
- ★6月11、12日草刈りボランティア
- ▲7月29～31日SSPE 青空の会サマーキャンプ
- ★10月1、2日草刈りボランティア
- ★10月29日秋チャリティーウォーク
- ★11月19日「がんばれ共和国」講演会(甲府市にて開催)



2016年4月23日 チャリティーウォーク後 広場にて



2016年4月 3号棟竣工



2016年4月 チャリティーウォーク



2016年甲府ロータリークラブより受賞



2016年10月チャリティーウォーク



2017年3月一紅会 広報活動



2017年2月 野外ステージ完成



2017年5月 じゃぶじゃぶ池完成

2017年

- ◆2月18日年報AOZORA2016 VOL.2 発行
- 2月野外ステージ完成
- ◆3月11日、5月20日、7月8日同窓会で広報活動
- ★4月22日春のチャリティーウォーク
- ◆4月22日甲府一高あおぞら会 総会
- 5月じゃぶじゃぶ池完成
- ★5月13日第2回ふるさと祭り
- ▲8月SSPE 青空の会サマーキャンプ
- ★10月14日、15日草刈りボランティア
- ★10月28日秋のチャリティーウォーク
- 12月キッズボックス完成



2017年4月チャリティーウォーク 水車小屋公園で休憩



2017年10月チャリティーウォーク

草刈り・薪作りボラ 10月14～15日



2017年10月草刈り・薪作りボランティア募集チラシ



2017年12月キッズボックス完成 右 内部

2018年

- ◆2月18日年報AOZORA2017 VOL.3 発行
- 2月24、25日 RDD(Rare Disease Day)2018開催
- ◆3月10日、5月19日、7月14日同窓会で広報活動
- ★4月21日春のチャリティーウォーク
- ◆4月21日 甲府一高あおぞら会 総会
- 5月12日 日野皓正Quintet in あおぞら共和国
- ▲8月SSPE 青空の会サマーキャンプ
- ★9月30日『ヘレンハウス物語』翻訳本発行
- ★10月27日秋のチャリティーウォーク
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア
- あおぞら共和国「こどもの発達及び療育相談室」開始



2018年4月 チャリティーウォーク



右 ゴール後全員で。げんきキッズクリニックからは大型バスで参加



2018年5月 日野皓正Quintet in あおぞら共和国



2018年10月 ミュージカル開催



2018年10月 チャリティーウォーク



右 水車小屋公園で休憩



甲府一高あおぞら会のあゆみ

●=夢プロジェクト/難病ネット主催のイベント

◆=甲府一高あおぞら会のイベント

2019年

- ◆2月16日年報AOZORA2018 VOL.4 発行
- ◆2月23日首都圏甲府会より会長賞特別賞受賞
- 3月1～3日交流棟竣工式、ウインターキャンプin あおぞら共和国、RDD2019、熱気球お披露目
- ◆3月9日、5月19日、7月6日同窓会で広報活動
- ★4月13日春のチャリティーウォーク
- ◆4月13日甲府一高あおぞら会 総会
- ★4月20日あおぞら新緑まつり
- ◆4月20日難病ネットより感謝状受領
- ★6月15、16日 9月28、29日 草刈りボランティア
- ▲9月6～8日SSPEサマーキャンプin 白州
- ◆11月9日第1回あおぞら共和国感謝の集い開催
- 11月9、10日あおぞら共和国新生児講演会
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア



2019年 首都圏甲府会から、難病ネットから受賞 2019年3月交流棟主竣工



2019年3月 ウィンターキャンプin あおぞら共和国、RDD2019開催、熱気球お披露目、星つむぎの村移動プラネタリウム開催。彫刻家の宇賀地洋子さん製作母子像の宇賀地さんによる除幕式が行われました。この母子像は元甲府一高あおぞら会の会員 故相川公代様のご両親からの寄付を元に制作・寄贈されました。



2019年4月13日 チャリティーウォーク



2019年4月20日 あおぞら新緑まつり

2020年

- コロナウイルス感染拡大防止のため活動縮小
- ◆2月15日年報AOZORA2019 VOL.5 発行
総会は年報の会務報告による紙上開催とした
- ◆4月4日会則を変更し会計年度を暦年とした
- 6月5号棟竣工
日本郵便年賀寄付金助成で太陽光発電機器設置
- 8月8、9日がんばれ共和国Web キャンプあおぞら共和国参加
- ▲SSPE 青空の会もテレキャンプ
- ◆10月3日実行委員会をZoomにて開催
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア



2019年4月20日 あおぞら新緑まつり 中央 みんなで豚汁作成 右 難病ネットより感謝状受領



2019年11月9日 あおぞら共和国感謝の集い

2021年

- コロナウイルス感染拡大防止のため活動縮小
- ◆2月28日年報AOZORA2020 VOL.6 発行
総会は年報の会務報告による紙上開催とした
正副会長の承認は事務局送付とし、承認された
- ◆3月18日5号棟の介助用品寄贈
- 9月正門ゲート(仁志田ゲート)設置
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア



2020年10月3日 Zoom 実行委員会



2020年6月5号棟竣工



2021年5号棟の介助用品寄贈



2020年6月5号棟太陽光発電システム

2022年

- 前半はコロナウイルス感染予防で活動縮小
- ◆3月4日年報AOZORA2021 VOL.7 発行
総会は年報の会務報告による紙上開催とした



2021年9月 正門ゲート(仁志田ゲート)設置

★=共催 or 難病ネットのイベントに甲府一高あおぞら会として参加 / 部分サポートしたものです。

- 3月12日たくさんイベント--オンライン開催
- ★5月28日草刈りボランティア
- ◆7月22日「あおぞら共和国物語」会員へ発送
- ★9月25日草刈りボランティア
- 10月9日らくがきキッズParty 開催
- ★10月22、23日 志賀・山梨ダウン症アーティスト交流展
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア



2022年草刈りボランティア あおぞらの森整備
枯れ木伐採、遊具設置(右 ツリーテラス)他



2022年アーティスト交流展



2023年台ヶ原宿市に難病ネット ブース出展

2023年

- ◆2月26日年報AOZORA2022 VOL.8 発行
- ◆5月20日、7月8日同窓会で広報活動
- ★5月26、27日 9月22、23日草刈りボランティア
- ★10月20～22日台ヶ原宿市に難病ネット出展
- ★10月21日秋のチャリティーウォーク
- ◆11月18日第2回あおぞら共和国感謝の集い開催
甲府一高アカペラ部演奏



2023年感謝の集いアカペラ部演奏



2023年10月21日チャリティーウォーク日野春

2024年

- ◆3月1日年報AOZORA2023 VOL.9 発行
- ★3月8～10日たくさんイベント
- ◆遠方からの参加者へ交通費の支援を行いました
- ◆3月9日、5月18日、7月20日同窓会で広報活動
- ★4月20日春のチャリティーウォーク
- ★5月24、25日草刈りボランティア
- ★9月19、20日草刈りボランティア
- ★10月5日秋のチャリティーウォーク
- ◆11月16日第3回あおぞら共和国感謝の集い
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア



2024年3月8～10日たくさんイベント 8日には雪が降りました。



2024年10月5日 チャリティーウォーク



2025年3月29日 チャリティーウォーク

2025年

- ◆3月1日年報AOZORA2024 VOL.10 発行
- ◆3月8日、5月17日、7月19日同窓会で広報活動
- 3月24日山梨県との連携協定締結
山梨県ふるさと納税クラウドファンディング12月29日終了
- ★3月29日春のチャリティーウォーク
- ★4月11～13日春のあおぞらキャンプ
- ★5月30、31日 9月26、27日草刈りボランティア
- ◆10月18日第3回あおぞら共和国感謝の集い開催
- ★11月15日秋のチャリティーウォーク
- ◆11月『あおぞら44女子掃除隊』一泊大掃除ボランティア
- あおぞら共和国「こどもの発達及び療育相談会」月1回土曜日開設



2025年クラウドファンディング案内HP



2025年5月新割り 2025年7月同窓会広報活動



2025年11月チャリティーウォーク



2025年10月18日 あおぞら共和国感謝の集い



編笠山(あみがさやま)は、標高2,524m、八ヶ岳連峰の最南端に位置する山。1964年に八ヶ岳中信高原国定公園に指定され、山梨百名山に選定されている。あおぞら共和国から14km、車で約30分、観音平(1560m)駐車場から登山⇒1時間 雲海⇒50分 押手川⇒1.5時間 山頂 (登り3時間20分、下り2.5時間)



あおぞら共和国のご利用方法

あおぞら共和国の利用方法については、NPO難病のこども支援全国ネットワークの「あおぞら共和国」HPの専用の「ご利用案内」(サイト上部メニューバー)をクリックして、お申し込みください。団体でご利用の場合は難病ネットへ問い合わせください。

ご利用いただける方は、以下となっております。

- ① 難病や障害のある子どもとその家族及び、その関係者や支援者
- ② 難病ネット会員(正会員・賛助会員・購読会員)

甲府一高あおぞら会会員は支援する団体会員ですので、空きがあれば利用できます。

あおぞら共和国 所在地:山梨県北杜市白州町鳥原2913-134

JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約12分 中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分



Q&A 皆様からの質問と回答

Q あおぞら共和国の草刈りボランティアに参加したいのですが

A 草刈りボランティアの案内はあおぞら共和国のホームページに掲載されます。そこに記載されたメールアドレスに参加申し込みメールを送ってください。2026年度の初夏の草刈りは5月29日、30日、秋の草刈りは9月25日、26日開催の予定です。1日の参加もOKです。2日間参加の方はあおぞら共和国に宿泊出来ますので、宿泊体験(夕食の懇親会)も同時に可能です。参加者は主催者負担でボランティア保険に加入していますが、危険木の伐採などは専門家が行います。どのような作業が行われているかは、甲府一高あおぞら会のHPの記録をご覧ください。



あおぞら共和国近くの『みどころ・あじどころ』 その11(毎号連載)

山の水農場白州きのご専門店



大きなキノコ!古い蔵をリノベーションしたお店。農場で採れた季節のきのこを販売しています。農場直送、生のキノコが沢山!店の場所は台ヶ原宿場の中心(金精軒・七賢付近)から約650m。ドライきのこのラインナップも多く、珍しいドライきのこ販売も専門店ならではのオリジナルのきのこ加工品「ドライきのこの粗挽き粉末」は人気のアイテムです。



〒408-0315 山梨県北杜市白州町白須5810【営業日】毎週金曜日・土曜日(1月はきのこ菌仕込みのため休業)

2025年甲府一高あおぞら会の会務報告

1、2025年の活動 事務局 山本秀彦 (2025年1月1日~12月31日)

- ◆ 2月末の年報AOZORAの発送で、2025年の活動を開始しました。あおぞら共和国での活動、イベントへの参加・支援は原則、個人の判断で対応としました。甲府、東京の同窓会では広報活動を行いました。活動の詳細はホームページAに掲載しております。
- ◆ 感謝の集い・総会の開催 2025年10月18日(土)あおぞら共和国交流棟に、34名が参加し、甲府一高あおぞら会10周年記念「あおぞら共和国感謝の集い」を開催いたしました。総会では2026年の役員体制を説明しました。詳細はホームページBを参照してください。



2、会計報告 会計 田伏純子 (2025年1月1日~12月31日)

- 1) 収入 = 合計1,942,245 円 会費 = 1,014,000円 会員数434名(会費納入者は338名) 寄付金=512,454 円
イベントでの寄付金、会員の皆様からの個別の寄付金 *その他:繰越金
- 2) 支出 = 合計675,375円 事務費、支払い手数料、通信費、輸送費、広報費、寄贈図書費
- 3) 支援金 = 1,266,870円 収入より、支出を差し引いた金額をあおぞら共和国への支援金として“夢”プロジェクト宛に振り込みました。なお、52万円は春のキャンプ参加支援他として、期首に振り込みました。

2015年~2025年の支援金累計額は 20.357.531円となっています。

3、甲府一高あおぞら会のあおぞら共和国支援と難病ネット活動について

- ◆ 難病のこども支援全国ネットワーク(以下難病ネットと略記)の仕事 難病ネットの活動は 1.電話相談や遺伝特別相談、ピアサポートなどの相談活動 2.岩手から沖縄まで全国7か所でのサマーキャンプ“がんばれ共和国”建国、親の会連絡会、サンタクローズの病院訪問などの、交流活動 3.子どもの難病シンポジウムや病弱教育セミナー、自立支援員研修会などの啓発活動 4.あおぞら共和国をはじめ積極的に地域活動を行っています。C あおぞら共和国専用サイトD
- ◆ 甲府一高あおぞら会は、上記難病ネットの4つの大きな活動の内、地域活動の「あおぞら共和国」の構築、運営、維持の支援を行っています。



会費納入(会員の更新)と、本会の紹介及び支援のお願い

- ◆ 会費納入先: ゆうちょ銀行 口座名: 甲府一高あおぞら会 口座番号 001 10-9-323825
年報に同封したゆうちょ銀行の赤色振込用紙(料金加入者負担)で会費納入(会員継続)をお願いします。その他の振込方法は振込手数料は自己負担となりますが、ホームページEをご参照の上よろしく願いいたします。
- ◆ 甲府一高同窓生に限らず、一般の方もご入会いただけます。実行委員に就任いただける方は事務局へ連絡ください。
- ◆ 「あおぞら共和国」への支援は各種の方法でF
 1. ゆうちょ銀行会費振込用紙で会費と寄付金を同時に納入頂く場合は、印刷された3,000円に取消線を引き、押印し、合計金額を上空欄部分に記載してください。その場合通信欄に明細(会費3,000円、寄付¥¥¥円)を記入してください。
 2. 認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」の会員となってください。
 3. 個人名での随時寄付は、ゆうちょ銀行加入者名: みんなのふるさと夢プロジェクト口座へ振り込み



事務局よりのお願い

あおぞら共和国でのイベントは、ホームページ、Facebook(QRコードP16)に掲載しております。会員の皆様へ事務局からの郵送費は郵便料金の大幅値上げで増大しました。低コストで簡単に克タイムリーなネットによる対応とするため、メールアドレス登録にご協力をお願いいたします。スマホのメールアドレスを登録いただいている皆様は、甲府一高あおぞら会からのメールアドレスを受信可能とする設定をお願いします。スマホの初期設定は「パソコンなどのメール受信設定」が「受信しない」となっている場合が多く、事務局からのメールが着信拒否となり届きません。スマホのメールをご利用の方は、aozora@ymkp.netを受信許可する設定としてください。事務局からのメールをスマホで受け取る様な設定に、ご協力をお願いいたします。

こども発達および療育相談

甲府一高あおぞら会実行委員 小口弘毅

2025年から難病ネットは山梨県と甲府市の小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を受託しました。その結果、9月から難病ネットからの依頼により私は“あおぞら共和国”で月一回(第二土曜日)北杜市を中心に地域のこども達の発達相談をボランティアで始めました。有難いことに、北杜市在住の元特別支援学校校長の原まゆみ先生(療育相談担当)も協力して下さっています。25年間の相模原市で小児科開業医として2000人を超える療育経験から発達の遅れているこどもを育てている親の相談医療機関が非常に少ないことを痛感していました。“あおぞら共和国”の“こども発達および療育相談会”が北杜市を中心に多くの発達の遅れを心配している親の良い相談場所になるように微力ながら努力していきたいと思います。



小口 弘毅
(難病こども支援全国ネットワーク理事)

難病病ネットでは、こども発達及び療育相談会を行っています。

相談員 小児科医 小口弘毅(難病ネット理事・甲府一高あおぞら会実行委員)

原まゆみ(北杜市在住元特別支援学校校長)

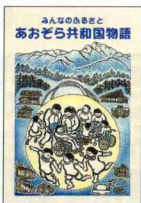
☆電話対応: 月～金 午前11時～午後3時 TEL:0551-30-9272

☆対面による相談・・・月1回 4月4日・5月9日・6月6日・7月4日
に行われます。8月以降はHPをご覧ください。



原 まゆみ
(北杜市在住 元特別支援学校校長)

小口弘毅氏の著書・編纂書紹介



あおぞら共和国物語

令和3年にあおぞら共和国建設の出発点である「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」が10周年を迎えた。本書はそれを記念し、翌年に小口氏が編纂、あおぞら共和国の建設経緯や10年間の歩みをまとめている。



ヘレンハウス物語

小口氏を中心とした翻訳グループが世界で初めてのこどもホスピス『ヘレンハウス』(イギリス)の誕生の物語を出版(翻訳書)。



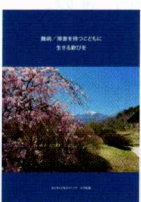
みんなのあしたはキラキラ

米国ダウン症協会のHPに掲載されていた内容を日本語に翻訳した「輝かしい未来」を中心に、「療育」について解説。保護者や関係者からの相談や支援の考え方や実践のヒントを紹介した冊子。平成29年発行。



神経発達症を持つこどもの家族向けCST テキストブック

神経発達症を持つこどもの家族向け 養育者子育て技能訓練の教科書



難病／障害をもつこどもに生きる歓びを

2019年11月山梨平和ミュージアムでの講演会の資料として作成新生児科医から、小児科開業医での経験、あおぞら共和国の建設とその意義を解説

これらの著書などは、甲府一高あおぞら会のHPにて、PDFがご覧いただけます。

図書紹介ページ

https://ymkp.net/aozora/publishing_2.html →



編集・発行・お問い合わせ

甲府一高あおぞら会 ホームページ: <https://ymkp.net/aozora/> 事務局mail: aozora@ymkp.net

ホームページとフェイスブック

入会のお申し込み以外にも、活動の様子、草刈りボランティアやイベントなどの日程や詳細は、ホームページとフェイスブックにてお知らせしています。チェックしていただき、活動にぜひご参加ください。



←ホームページ